

Ascentech

www.ascentech.co.jp

アセンテック株式会社 2019年1月期 決算説明会資料

2019年3月14日

東証マザーズ 証券コード3565

Copyright Ascentech K.K. All right reserved.

ascentech



アセンテック株式会社は、
「テレワーク」を実現する
キーテクノロジーである
「仮想デスクトップ」
を主要事業としています。

仮想デスクトップとは？

通常のPC環境

データは
PC本体に保存



紛失!



盗難!



紛失や盗難があった場合、**重要データが漏洩**し会社に大きな損害が発生。
社員のUSBメモリによるデータ流出のセキュリティリスクもあります。

仮想デスクトップ環境

データはサーバ側に保存



端末にデータは無し



紛失や盗難があっても、データ漏洩にはなりません。
USBメモリ等の利用も制限することができます。

仮想デスクトップソリューションのメリット

- ✓ 高いセキュリティ性で安心
- ✓ 多種多様な端末からアクセス可能
- ✓ 災害時もセキュアに業務継続
- ✓ サーバに集約、運用管理も容易に
- ✓ 電力消費も大幅削減
- ✓ 在宅勤務もセキュアに実現

■ 1

2019年1月期 通期決算報告

■ 2

マーケティングハイライト

■ 3

2020年1月期 業績の見通し

■ 4

更なる成長に向けた事業戦略

■ 5

参考資料

過去最高売上、利益を達成

2019年1月期 通期

前年同期比増減率

売上高

5,456百万円

26.1%増

経常利益

381百万円

41.9%増

増収増益の主たる要因

- ✓ **テレワーク導入案件**の増加や、企業のサイバーセキュリティ対策需要の増加に伴い、**仮想デスクトップビジネス**の事業領域が堅調に推移。
- ✓ **先進のハイパーコンバージド製品案件**や、**複数の国内大手クラウド事業者のITインフラ**を、**継続的に受注したこと**により、**仮想インフラ及びストレージ**の事業領域も好調。
- ✓ システムエンジニア部門の体制強化により、**VDI関連のプロフェッショナルサービス**が好調。

前期比及び予算達成率

	期初予算 (百万円) (2018年3月13日発表)	通期業績 (2019年3月13日発表)	前期比	進捗率 (予算達成率)
売上高	4,600	5,456	+26.1%	119%
営業利益	305	376	+48.5%	124%
経常利益	310	381	+41.9%	123%
当期純利益	215	265	+41.3%	124%
1株当たり 当期純利益(円)	32.48	40.16	+33.9%	124%

各事業領域で堅調に推移

■ 仮想デスクトップ

シンクライアント
Resalio Lynxシリーズ
仮想化ソフトウェア

■ インフラ&ストレージ

リモートPCアレイ
ハイパーコンバージド製品
オールフラッシュストレージ
サーバー

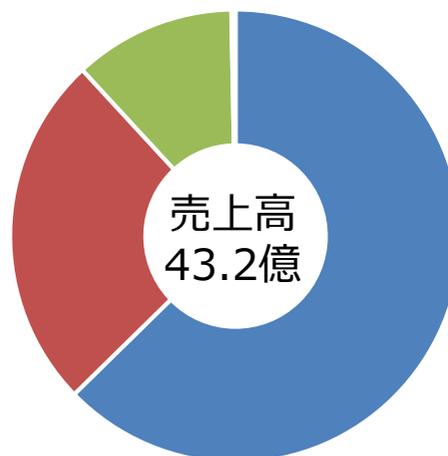
■ プロフェッショナルサービス

コンサルテーション
構築サービス
プレミアムサポート

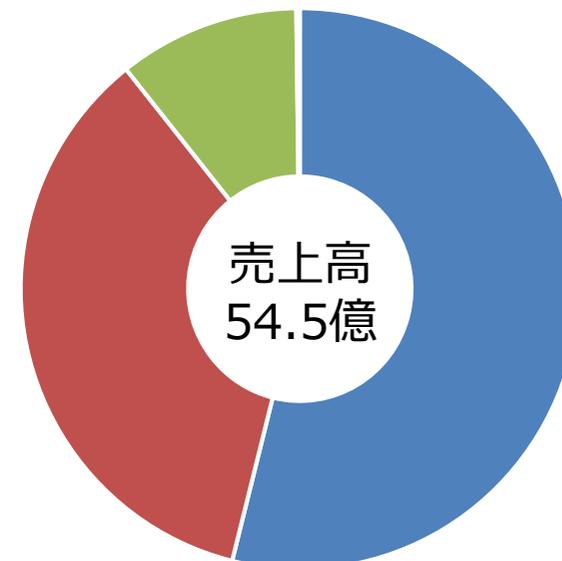
■ クラウドサービス

Resalio DaaS
Resalio BaaS
Citrixクラウド

2018年1月期

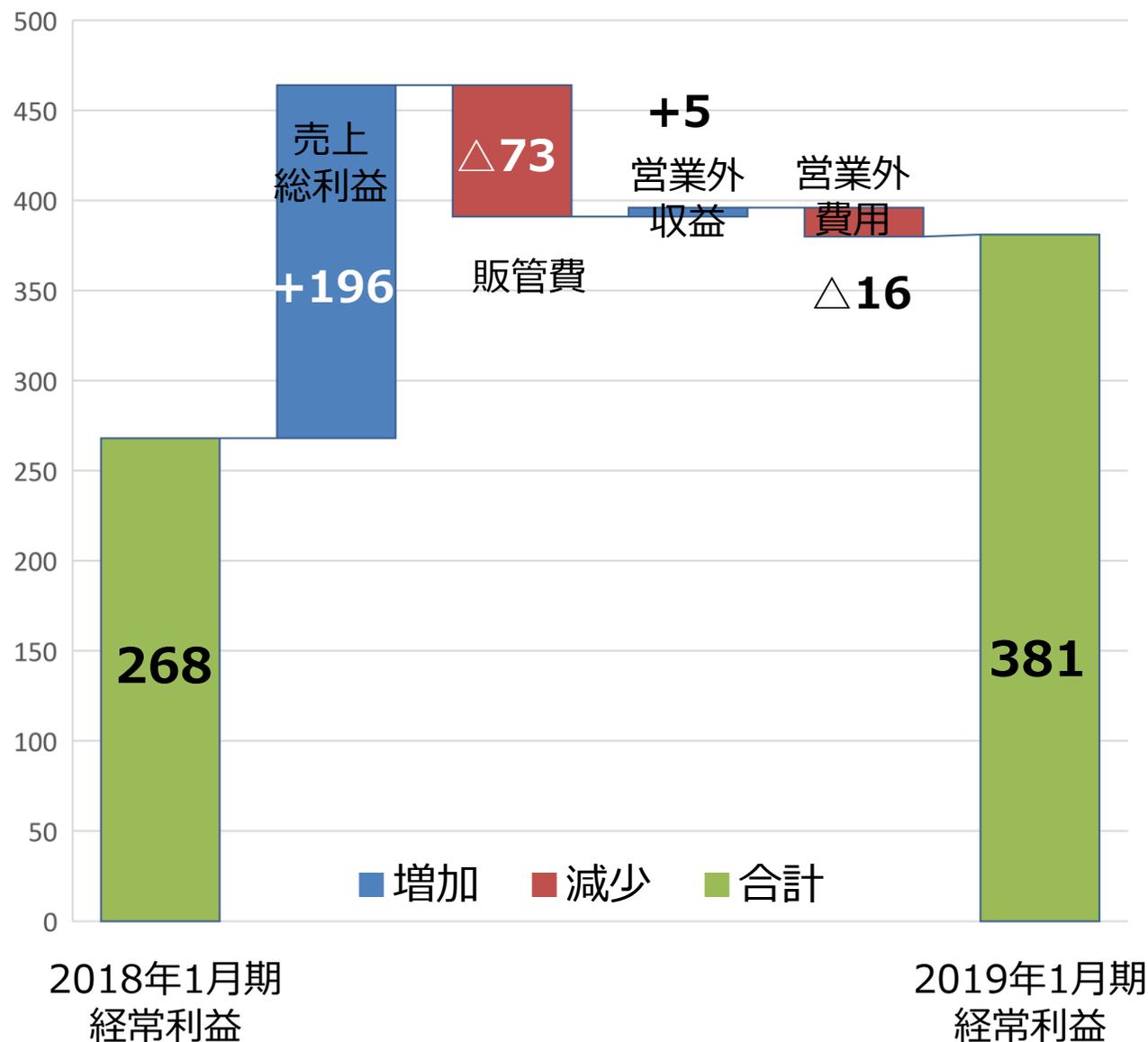


2019年1月期



事業領域	2018年1月期		2019年1月期	
	売上	構成比	売上	構成比
■ 仮想デスクトップ	2,690	62.2%	2,941	53.9%
■ インフラ&ストレージ	1,120	25.9%	1,930	35.4%
■ プロフェッショナルサービス	502	11.6%	571	10.5%
■ クラウドサービス	12	0.3%	12	0.2%
合計 (百万円、%)	4,326	100%	5,456	100%

経常利益の変動要因（前年同期比）



■ 主要要因 (単位：百万円)

↑ 売上総利益の増加 (+196)

↓ 販売管理費の増加 (△73)

(固定費) △49

・ 人件費

・ 地代家賃

・ 支払手数料 他

(一時費用) △21

・ 広告宣伝費

・ 福利厚生費

・ 研修費

・ 貸倒引当金繰入 他

↑ 営業外収益の増加 (+5)

・ 保険解約益 他

↓ 営業外費用の増加 (△16)

・ 為替差損 他

■ 1

2019年1月期 通期決算報告

■ 2

マーケティングハイライト

■ 3

2020年1月期 業績の見通し

■ 4

更なる成長に向けた事業戦略

■ 5

参考資料

Webメディアなどへの露出拡大

日経 XTECH

2019年2月14日掲載 日経 xTECH Special「テレワーク&RPAで進める働き方改革」より掲載

仮想デスクトップ × 働き方改革



リモートPCアレイが可能にする テレワークとRPAによる働き方改革

Anywhere, any device(どこからでも、どのようなデバイスからでも)——。オフィス外での柔軟な働き方を可能にするテレワークは、働き方改革が目指す「長時間労働の是正」「柔軟な働き方がしやすい環境整備」「病気の治療、子育て・介護などと仕事の両立」の実現を後押しするものといえる。また、作業負荷の軽減策として多くの企業が注目しているのが、事務作業をソフトウェアロボットで自動化するロボティクスプロセスオートメーション(RPA)。働き方改革推進で重要な役割を果たすこの2つの取り組みを強力にサポートするのが、アセンテックのリモートPCアレイだ。

導入・運用が容易なリモートPCアレイ

「働き方改革に取り組み企業が増えたこともあって、仮想デスクトップ基盤(VDI)の国内市場は急速に大きくなっています」

VDIソリューションの専業ベンダー、アセンテックの松浦 崇氏は、VDI市場の状況をこのようにまとめる。アセンテックは、1998年より20年以上にわたってVDIにかかわる様々なソリューションを取り扱ってきた。2016年10月には、本社やデータセンターに複数のPC機能を1筐体に集約し、遠隔地から利用するソリューション「リモートPCアレイ」を発表した。

リモートPCアレイの最大の特徴は、サーバーを必要とする従来のVDIソリューションよりも導入・運用のハードルが低いという点にある。「ハードウェア構成がシンプル



で、サーバー仮想化用のハイパーバイザーも不要。インフラコストは一般的なVDIの約半分です」と松浦氏。取り扱いはPCとほぼ同じなので、従来のPC管理者でも運用が可能だ。

2016年10月に発表された「リモートPCアレイ100」は、業界標準の19インチラック用の筐体に20台の「PCカートリッジ」を取めた形態になっている。筐体の高さは1U(ラックユニット)に抑えられているので、既存ラックの空きスペースに収容することも容易だ。設計・開発・製造を担当したのは、アセンテックと協業関係にある台湾のAtrust Computer Corp.だ。

1Uの筐体に30台のリモートPCを収容可能

最初のリリースから約2年が経った2019年1月17日、このリモートPCアレイ100の仕様を上下に拡張した「リモートPCアレイ200」と「リモートPCアレイ50」の2モデルが新たに発表された(写真)。

「リモートPCアレイ200」と「リモートPCアレイ50」19インチラック用の1U筐体に30台のPCを内蔵した。「リモートPCアレイ200」(右)。1ラックに約1000台のリモートPCを収容できる。同時に発表した「リモートPCアレイ50」(左)は、RPAや小規模VDI向けに、小型の筐体で1Uに30台を内蔵している



アセンテック株式会社
取締役副社長 松浦 崇 氏



Atrust Computer Corp.
創業者 CEO HT Cho 氏

リモートPCアレイ200での仕様拡張のポイントは、1Uの筐体内に収容できるPCカートリッジの数を30台に増やした点。その開発について松浦氏は、「大規模導入を予定されているお客様から『もっと柔軟な働き方を』という声が多くあつた」と説明する。業界標準では、40Uラックに約1000ユーザーのリモートPCを収容可能。従業員数が多い企業でも設備に要するスペースを心配することなく導入できる。

また、その分、送受信のハードウェアは薄くなった。「筐体当たりの消費電力を50W以下に抑えるという目標をクリアしただけならず、30台のPCカートリッジが収まる大筐体を筐体外に突出するのにも苦労しました」と振り返るのは、Atrust Computer Corp.のHT Cho氏。新たに設計・開発したPCカートリッジでは基板を2枚配置に変更したが、基板上は従来の基板と同じ構成になっている。また、動可換としては、プロセッサを含む部品をすべてに低消費電力版のものを使用し、ヒートシンクにも換熱効率がよいものを選んだ。

そのほかのハードウェア仕様は、リモートPCアレイ100のものを継承している。PCカートリッジ以外に内蔵されているのは、KVMスイッチx1(キーボード・ディスプレイ・マウスとの接続用)、イーサネットx1(10Gb)、Atrust Chassis Manager(管理用ソフトウェア)、ファンx6(ホットスワップ対応)、電源x2(1500W)・冗長化構造、ホットスワップ対応の各コンポーネント。PCカートリッジもホットスワップ対応なので、稼働が停止した場合は置換を止めることなく交換できる。

RPAや小規模VDIには5台構成のモデルが最適

一方、下位モデルのリモートPCアレイ50は、小規模用途に特化したコンパクトな仕様が特徴だ。

「これらの企業を立ち上げるきっかけとなったのは、事務作業をソフトウェアロボットで自動化するRPAでした」と松浦氏。ソフトウェアロボットを稼働させるための基盤としてリモートPCアレイを検討していた顧客から、「リモートPCアレイ100では大きすぎるので、PCカートリッジを5段階削減したものを売ってほしい」と要望されたことで、RPA向けという製品カテゴリーを市場が求めていると判断したのだという。

リモートPCアレイ50はオフィスのデスクやキャビネットにも置ける小型の筐体(幅49mm×奥行241mm×高さ256.4mm)になっていて、内蔵されているPCカートリッジは5台のみ。ノートPCと同じように、電源はACアダプターから供給する方式だ。このモデルも、設計・開発・製造はAtrust Computer Corp.が担当。Cho氏は、「リモートPCアレイ200の設計・開発で得られたノウハウと知恵を適用することで、5か月で完成させることができた」と語る。

なお、リモートPCアレイ50は、事務作業の自動化で働き方を改善するためのRPA運用で十分に活用されているが、小規模VDIのための基盤としても使用できる。また、従業員単位での働き方改善や、従業員がいないスタートアップ企業でのテレワークに最適な選択となることだろう。

監視などの管理はネットワーク経由でできる

以上のモデルは構成のリモートPCアレイは、専門のIT技術者でなくても容易に運用管理できるように工夫されている。ハードウェアの動作状況は、筐体内部のAtrust Chassis Managerが常時自動的に取得する仕組み。状況の監視や設定変更は、専用の管理アプリを組み込んだPCからネットワーク経由で行えるようになっている(画面)。「現場」で運用管理の作業をする場合は、KVMスイッチにキーボード・ディスプレイ・マウスをつなぐやり方でも可能だ。

筐体も多い「リモートPCアレイ100で、月に約1万ユーザー以上の導入実績がある」と松浦氏は話す。

アセンテックのこれまでのVDIビジネスと同様、リモートPCアレイもパートナー企業経由で企業・団体に提供されている。RPAについては、主要なライアントはRPAツール(WinActorやUiPathなど)での動作を確認済み。RPAソリューションとしては、RPAベンダーと共同でマーケティング・販売が進められていくことになりそうだ。

VDIとRPAの2つの構築で、リモートPCアレイは必ず設置しなくてはならない製品とも異なる。新しく買入れなかったVDIとRPAの活用をよりシンプルに提供するリモートPCアレイは、働き方改善という共通の課題を担っているという。



リモートPCアレイ200の管理ツール画面例
設計が得意なAtrust Chassis Managerがハードウェアの動作状況を取得。専用の管理アプリを組み込んだPCの画面に、電源やファン回転などのハードウェアの状況がグラフィカルに示される。電源はオンライン/オフライン/リモートPCのオン/オフ/再起動などの操作もネットワーク経由で可能。筐体も、KVMを介して複数の監視や設定変更ができる

ascenitech アセンテック株式会社 www.ascenitech.co.jp
〒121-0022 東京都豊島区西池袋2-3-1 A 敷1F
TEL: 03-4264-9330 FAX: 03-4264-9332
E-mail: info@ascenitech.co.jp

※本記事は、2019年2月14日に掲載された日経 xTECH Specialからの転載です。
https://special.nikkeibp.co.jp/tech/NOT/19/ascenitech/0214/

「日経SmawtWork経営」にて講演 2019年2月8日

仮想デスクトップの課題を克服し テレワークを実用段階へ

2019年3月11日付け日本経済新聞 朝刊に、当社 代表取締役 佐藤 直浩の『仮想デスクトップの課題を克服しテレワークを実用段階へ』と題した講演内容の抜粋記事が掲載されました。

これには2019年2月8日に実施された日本経済新聞社主催（厚生労働省 共催）「NIKKEI Smart Work」シンポジウムの内容が反映されており、その中で当社は自らが実践している働き方改革を紹介し、新たな仕組みでコストや負担を軽減するリモートPCアレイの効用についても大きな共感を得ました。



講演

仮想デスクトップの課題を克服しテレワークを実用段階へ

アセンテック 代表取締役社長

当社は仮想デスクトップ事業を展開している。2月に設立10周年を迎えた。当初は十分な資金や人員がなく、厳しい状況が続い

た。その難局を乗り越えるため徹底して無駄を省いた。拠点を1カ所に集約し、直

行直帰を容認。仮想デスクトップを導入して社外での

で、平机のほかソファ席やボックス型のフォーカスア

レワークでも鍵となる。通常使用しているパソコンのモーターPCアレイを製品化した。利用者ごとに1台のパソコンを割り当てる仕組みのため、従来の仮想デスクトップのように複雑なシステム設計や運用の手間がなく、導入負担を大幅に軽減できる。既存のパソコンに導入するだけでシンククライアント化できる専用ソフトも提供している。

新たな仕組みで負担を軽減

業務を可能にした。効率を追求する一方で、社員同士の会話や休憩は自由。座席はフリーアドレス

こうした取り組みの結果、1人当たりの平均残業時間は2016年から毎年10%ずつ減少。1人当たりの売

ないシンクライアントで運用するため、セキュリティを高められるからだ。しかし、コスト負担や運用の

手間が大きいことから導入を断念する企業が多い。そこで当社は、超小型のパソコン30台を1台のサーバーラックに集約したりリモートPCアレイを製品化した。利用者ごとに1台のパソコンを割り当てる仕組みのため、従来の仮想デスクトップのように複雑なシステム設計や運用の手間がなく、導入負担を大幅に軽減できる。既存のパソコンに導入するだけでシンククライアント化できる専用ソフトも提供している。

■ 1

2019年1月期 通期決算報告

■ 2

マーケティングハイライト

■ 3

2020年1月期 業績の見通し

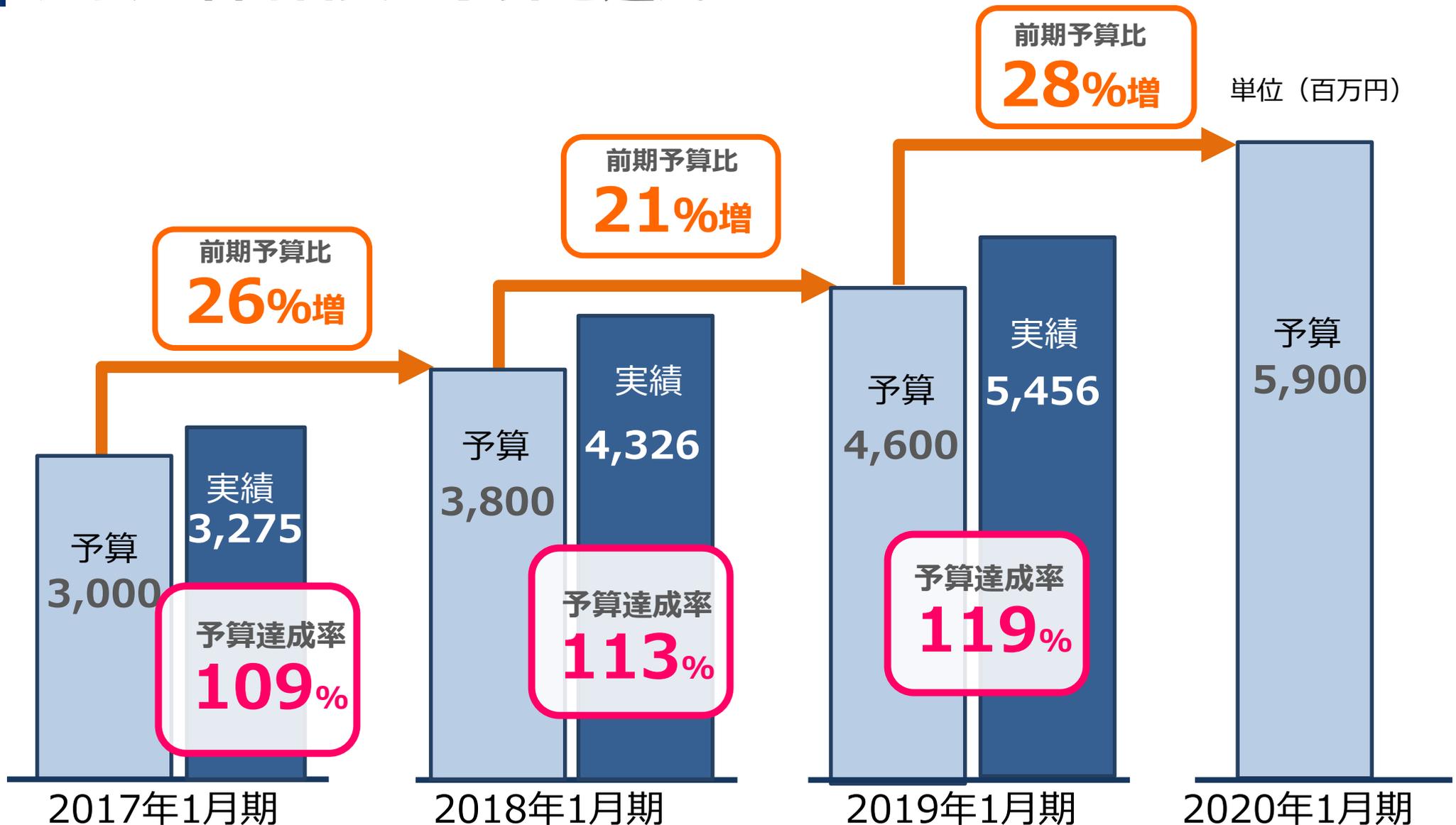
■ 4

更なる成長に向けた事業戦略

■ 5

参考資料

過去3年間着実に予算を達成



成長戦略を実行し増収増益を図ります

(単位：百万円)	2020年1月期 通期予算		前期実績比 増加率	2020年1月期 上期		2020年1月期 下期	
	金額	%	%	金額	%	金額	%
売上高	5,900	100.0	8.1	3,300	100.0	2,600	100.0
売上原価	4,975	84.3	9.1	2,835	85.9	2,140	82.3
売上総利益	925	15.7	3.3	465	14.1	460	17.7
販売費及び 一般管理費	505	8.6	△2.5	245	7.4	260	10.0
営業利益	420	7.1	11.4	220	6.7	200	7.7
経常利益	405	6.9	6.2	200	6.1	205	7.9
当期純利益	280	4.7	5.4	138	4.2	142	5.5

配当方針について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と認識しつつ、業績の推移、財務状況、事業計画に基づく資金需要等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスをとりながら、経営成績に合わせた利益配分を基本方針としております。今後の配当につきましては、配当性向20%を目指します。

1株当たりの配当金				
基準日	第二四半期末	期末	合計	配当性向
2018年1月期 実績	0円00銭	10円00銭	10円00銭	16.7%
2019年1月期 実績	0円00銭	14円00銭	14円00銭	17.4%
2020年1月期 予想	0円00銭	7円00銭	7円00銭	16.6%

(注) 当社は、平成31年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2018年1月期及び2019年1月期につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。なお、2020年1月期(予想)につきましては、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

■ 1

2019年1月期 通期決算報告

■ 2

マーケティングハイライト

■ 3

2020年1月期 業績の見通し

■ 4

更なる成長に向けた事業戦略

■ 5

参考資料

- 1. 自社製品の開発と展開**
2. 継続収入ビジネスの拡大

「リモートPCアレイ」新製品を発表 2019年1月17日

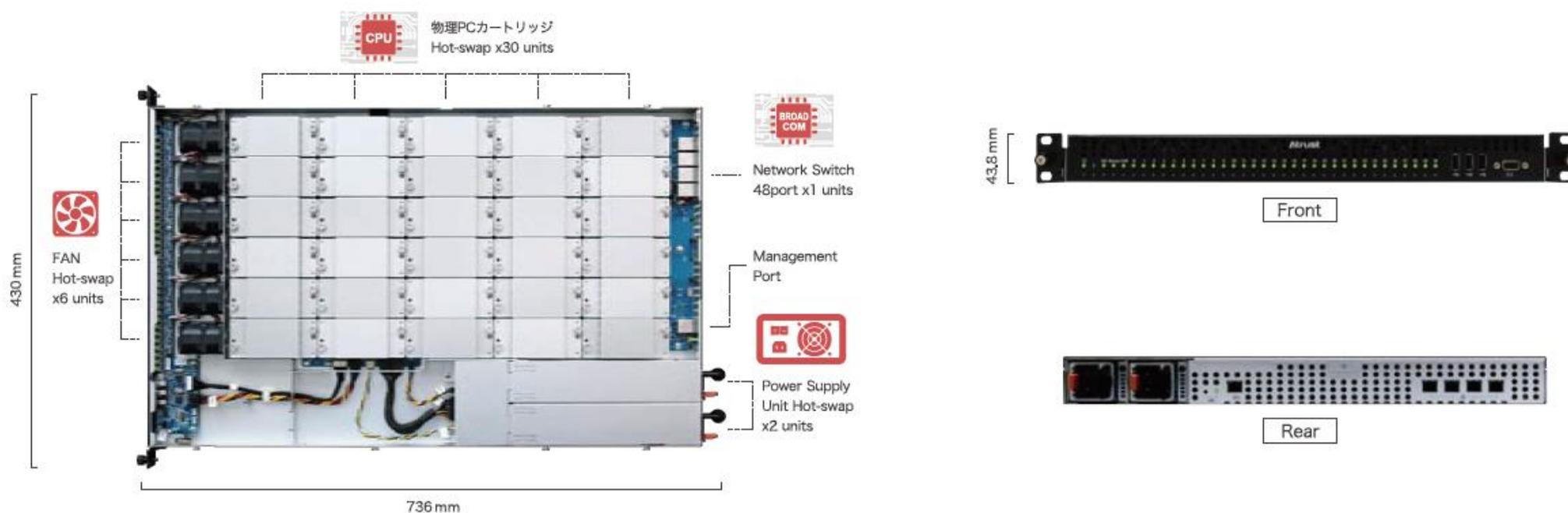
なぜ「リモートPCアレイ」の採用が進むのか？

- ◆ 仮想デスクトップの導入障壁を克服！
- ◆ テレワーク環境を容易に実現！
- ◆ Windows7サポート切れ(2020/1)に伴い、Windows10への移行が加速！
- ◆ RPA（Robotic Process Automation）利用に最適なプラットフォーム！

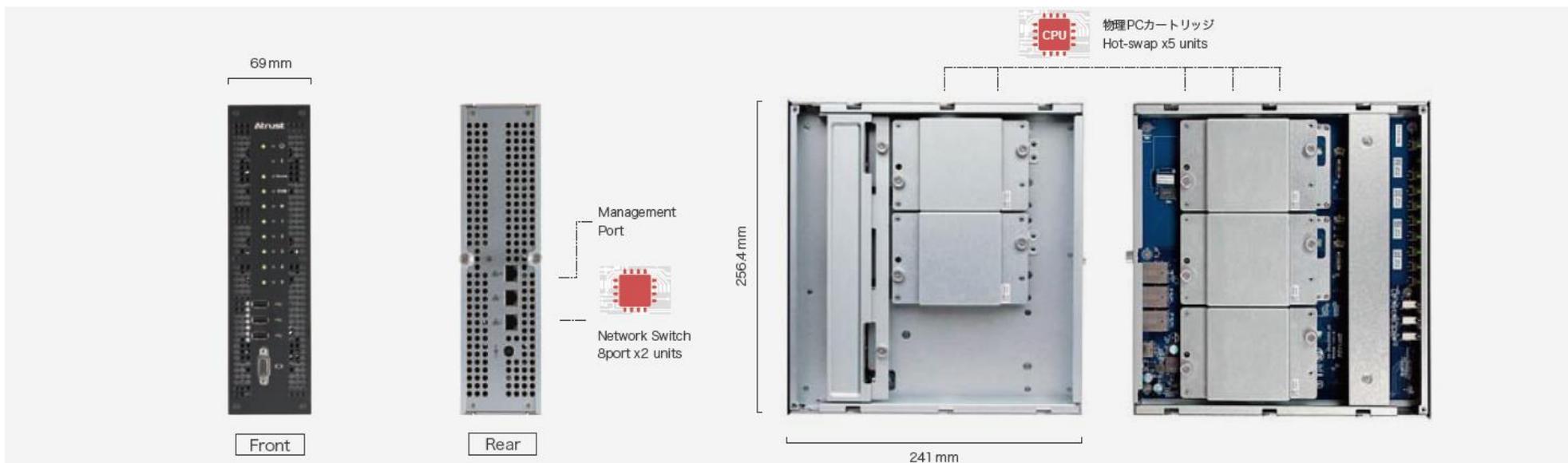


大規模仮想デスクトップ用「リモートPCアレイ200」 **NEW**

- 1Uのサーバ筐体に、30台の小型PCを集約
- Windows 10への移行先のシステムとして最適
- 高密度実装により、1ラックで約1,000ユーザまで収容可能



RPA用専用プラットフォーム「リモートPCアレイ50」 NEW



特長

RPAに最適な同一仕様PC5台構成

複数拠点にあるRPA専用PCを1拠点に集約することで、ライセンスコストを削減できます。また、PC仕様が統一されているため、シナリオの安定稼働に最適です。さらに、管理ソフトウェアにより一元管理が可能です。

主要なクライアント型RPAをサポート

国内で主要なクライアント型 RPA (WinActor, UI Pathなど)動作確認済み。[※]
RPA専用PCとして安心してお使いいただけます。

[※] アセンテック社調べ

1. 自社製品の開発と展開
2. 継続収入ビジネスの拡大

■ 継続収入ビジネスの拡大

当社は、**更なる利益成長と堅牢な企業基盤**を構築するために、**継続収入ビジネスの拡大**を目指しております。具体的な施策として以下の3つを掲げます。

- Resalio Lynxのサブスクリプション化
- 自営保守ラインアップの拡大
- プレミアサポート&サービスの拡大

Resalio Lynx全シリーズのサブスクリプション化

**働き方改革を背景にテレワーク需要に対応！
金融及び製造業などで急速に採用が進む！**

Resalio Lynx 300/500



USBキーブート型

Resalio Lynx 700



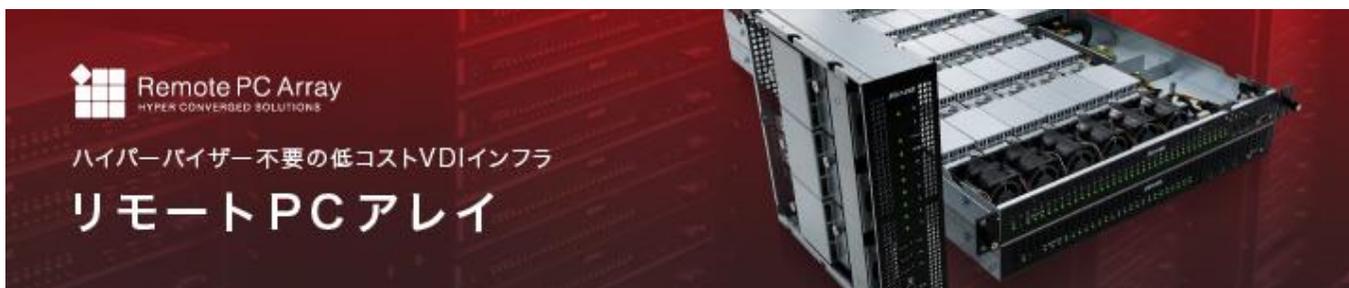
ソフトウェア型

- ◆ 自社開発のシンククライアント専用OSで、既存PCをシンククライアント化するソフトウェア。
- ◆ Web会議システムSkype for Businessに対応
- ◆ 年額3,000円/ユーザ（保守込み、税別）*という低料金で提供

*:USB代金別

■ 自営保守ラインアップの拡大

リモートPCアレイ 50/100/200



ネットワーク製品 Citrix ADC



クアンタム社 ストレージ、Tape製品

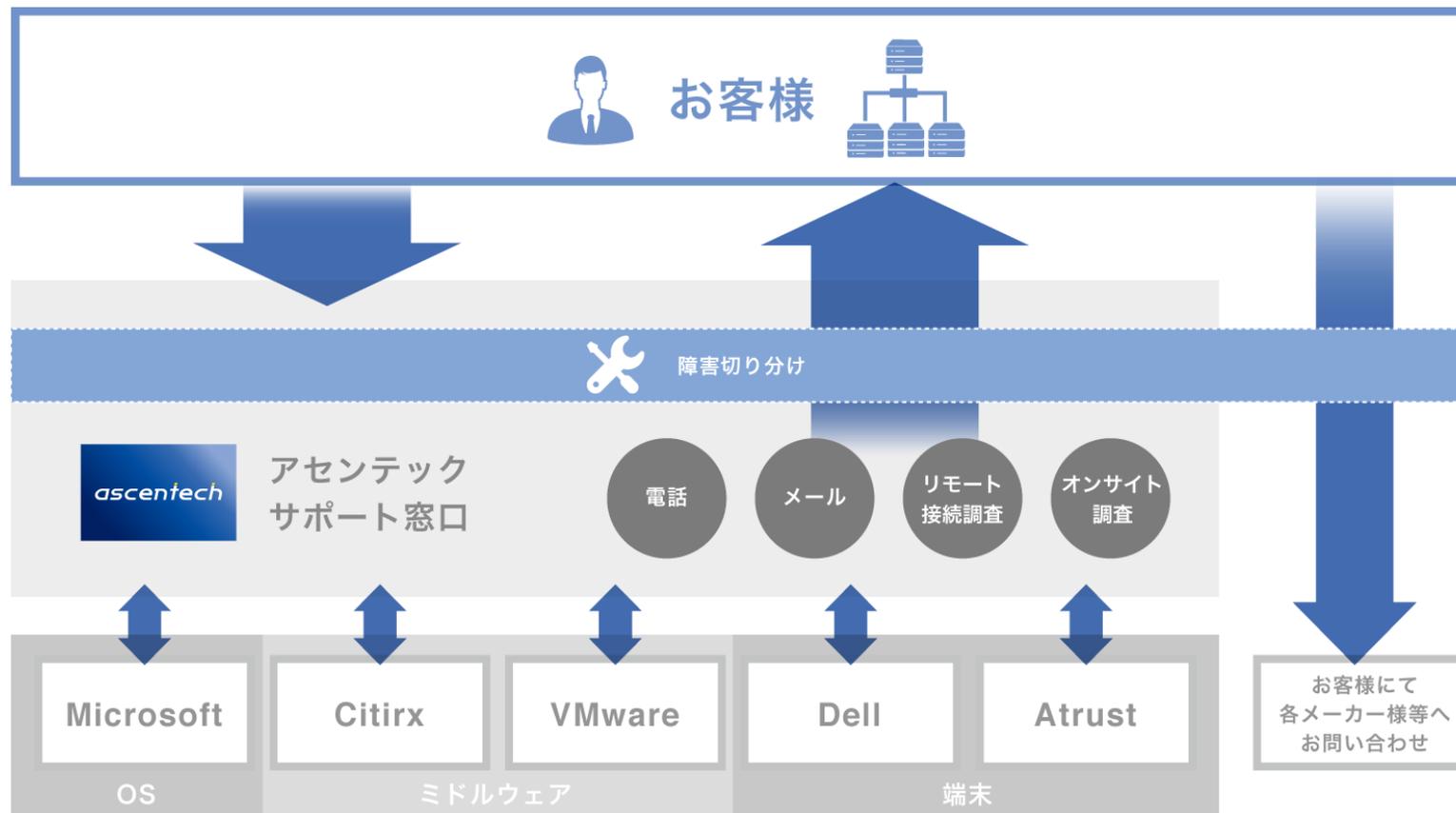


ストレージ暗号化製品 KeySecure



■ プレミアサポート&サービスの拡大

仮想デスクトップに関わる当社オリジナルサポートサービス
サーバーOS、仮想化ソフトウェア、端末に至るまで、障害切り分け
から問題解決まで、総合的にサポートを提供します。

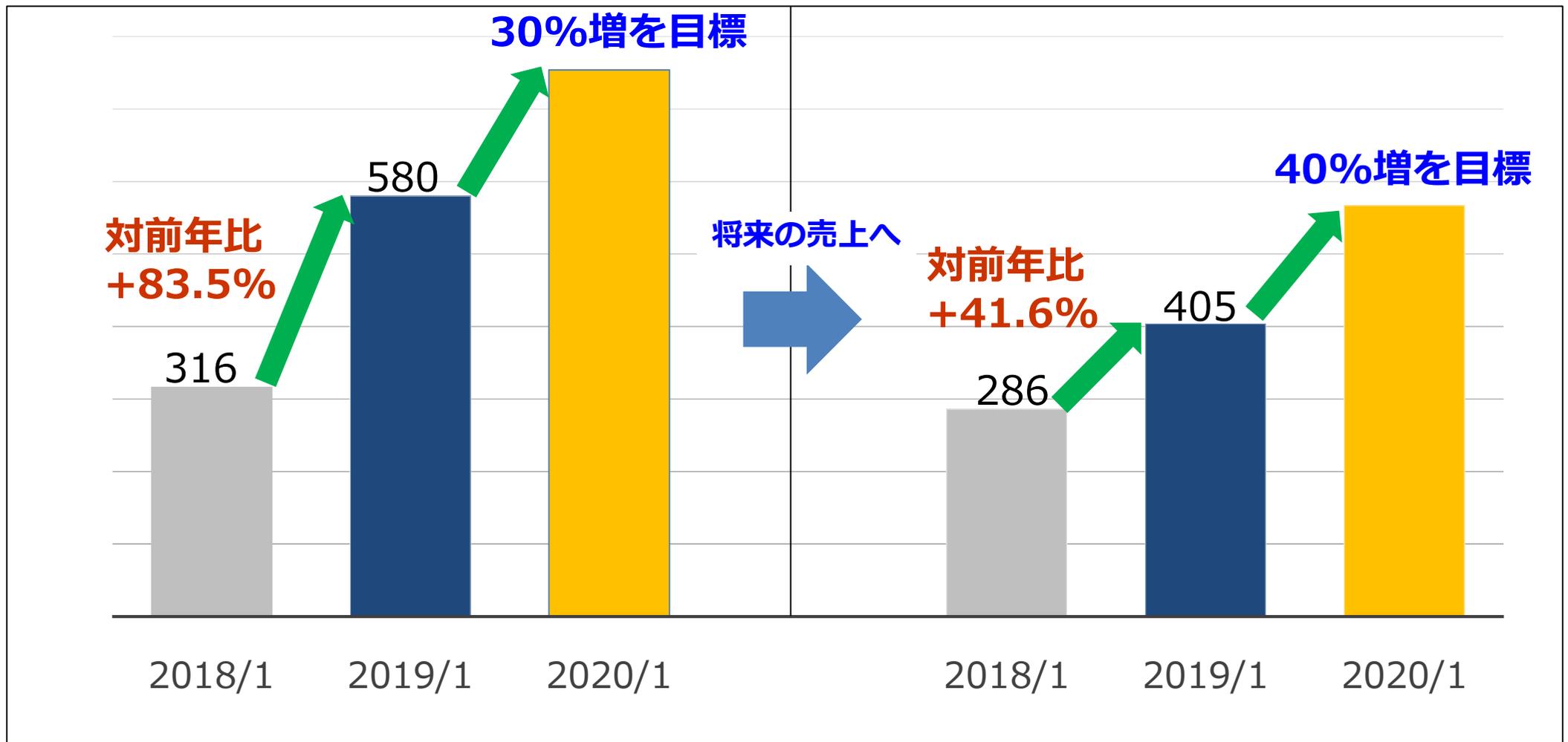


継続収入ビジネス

継続収入受注ベース 実績と目標(将来の売上)

継続収入売上ベース 実績と目標(その年度の売上)

(単位：百万円)



■ 1

2019年1月期 通期決算報告

■ 2

マーケティングハイライト

■ 3

2020年1月期 業績の見通し

■ 4

更なる成長に向けた事業戦略

■ 5

参考資料

会社概要及び沿革

会社概要

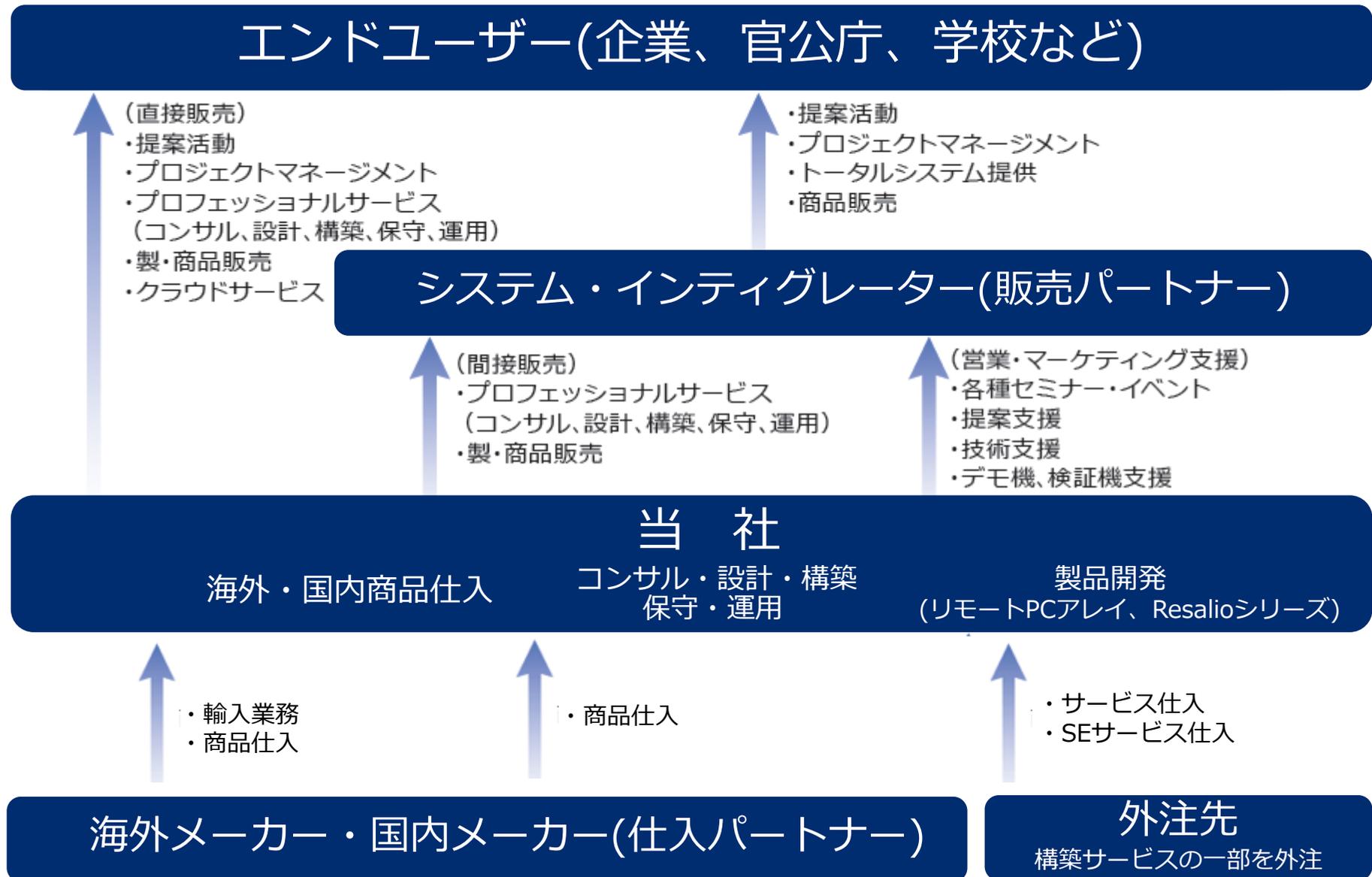
商号	アセンテック株式会社 Ascentech K.K.	
所在地	【本社】東京都千代田区神田練堀町3 大東ビル9F 【インフラソリューションラボ】 東京都台東区台東1-14-9 清水ビル4F	
設立年月日	2009年2月2日	
資本金	2億2,887万円（2019年1月31日現在）	
役員	代表取締役社長 取締役副社長 取締役（非常勤） 監査役 監査役（非常勤） 監査役（非常勤）	佐藤 直浩 松浦 崇 萬歳 浩一郎 鶴田 二郎 松田 英典 山本 勲
従業員数	68名（2019年1月31日現在）	
上場市場	東京証券取引所マザーズ 証券コード：3565	
取引銀行	三菱UFJ銀行、みずほ銀行、りそな銀行	
事業内容	仮想デスクトップに関連する製品開発、販売及び コンサルティングサービスの提供	
主要取引先	エヌビディア合同会社、シトリックス・システムズ・ジャパン(株)、 (株)ソリトンシステムズ、ダイワボウ情報システム(株)、デル(株)、 日本アイ・ビー・エム(株)、日本クアンタムストレージ(株)、 日本ナレッジ(株)、日本ヒューレット・パカード(株)、日本マイクロ ソフト(株)、(株)ネットワーク、(株)ラネクシー、レノボ・ジャパン(株)、 Atrust Computer、Cortado AG、Nexenta Systems, Inc.、 Numacent、SafeNet, Inc.など	

沿革

2018年8月	東京都台東区にインフラソリューションラボを設立
2017年10月	日本ヒューレット・パカード株式会社と一次店契約を締結
2017年10月	本店所在地を東京都千代田区神田練堀町（現在地）に移転
2017年8月	NVIDIA社とパートナー契約を締結
2017年5月	資本金を2億1,932万円に増資
2017年4月	東京証券取引所マザーズに上場
2016年3月	資本金を7,120万円に増資
2015年8月	GMOインターネット(株)とリセールパートナー契約を締結
2014年10月	デル(株)とプレミアムパートナー契約を締結
2014年1月	Atrust Computer Corp.と代理店契約を締結
2013年9月	Nimble Storage Inc.と代理店契約を締結
2013年4月	資本金を6,500万円に増資
2013年3月	株式会社ネットワークと資本、業務提携
2012年10月	SafeNet社と代理店契約を締結
2012年10月	アセンテック株式会社に社名変更
2012年3月	VDIイノベーションセンターを設立
2009年2月	資本金5,000万円にて設立

2009 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

ビジネスモデル（事業系統図）





フリーアドレス化、VDI&シンククライアント導入



スタンディング会議スペース



ソファ席（業務スペース）



フォーカスブース

マーケティング～営業活動をワンストップで提供

VDIイノベーションセンター（秋葉原徒歩2分）を新設。同一フロア内にセミナールーム（34名）、製品・サービスの常設デモ設備、商談ルームを設置し効率を向上。

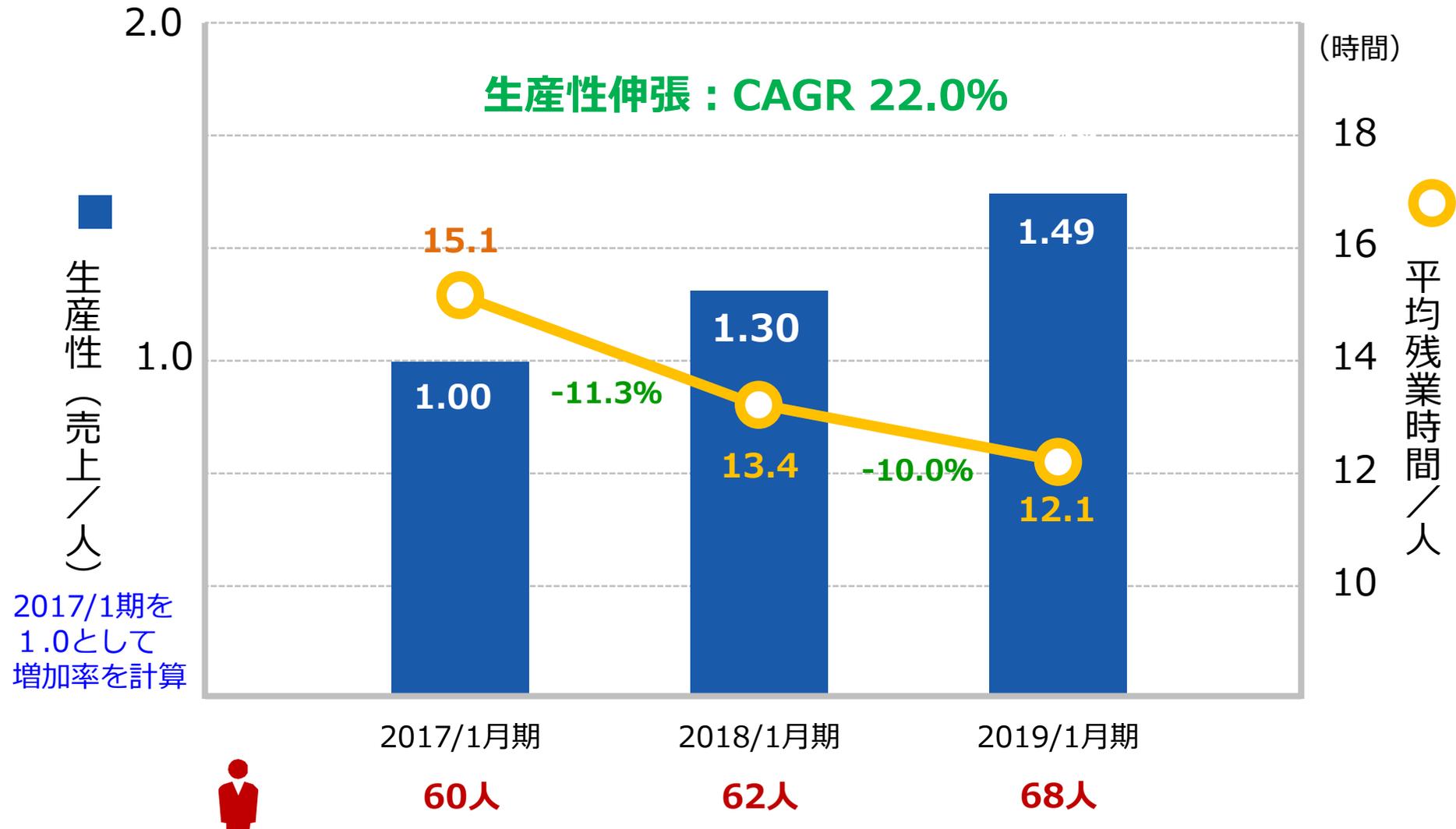


セミナールーム
セミナー回数：
年間約50回開催



21件のソリューション
デモを常設展示。

残業時間と生産性の推移



本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。

かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

当社が事業環境の説明を行う上で、参考となると考える情報を掲載しております。掲載データについては、調査方法や調査時期により結果が異なる可能性があります。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

The logo for Ascentech, featuring the word "ascentech" in a white, lowercase, sans-serif font. The letters "a" and "e" have a small yellow dot above them. The logo is centered within a dark blue rectangular background.

ascentech